

資料紹介

西南学院大学博物館所蔵「宗門御改影踏帳」(2)

目次

目次	一
解題	二
凡例	七
「宗門御改影踏帳」(2)	八

資料紹介

西南学院大学博物館所蔵「宗門御改影踏帳」(2)

安高 啓明

稲益 あゆみ

解題

本稿は、西南学院大学博物館所蔵の「宗門御改影踏帳」の翻刻である。当館が所蔵する十一一点のうち、本稿では創刊号で紹介した天明、文化年間のものに引き続いて、天保期の三点(天保二年(A1-001-05)・天保二年(A1-001-06)・天保四年(A1-001-07))を掲載している。

第一回の解題でも紹介したように、本資料は嶋原藩武家の宗門人別改帳である。幕府のキリシタン禁制を徹底するために、寺請制度のもと、各地で作成された。領氏がキリシタンではないことを証明するとともに、江戸時代の戸籍の役割をも果たしている。

嶋原藩史をみると、藩の歴史は元和二(一六一六)年、大和五条城主であった松倉重政が移封され肥前国嶋原の日野江城(現南島原市北有馬町)に入ったことに始まる。その後、新たに築城した島原城(現島原市)へ移り、重政の子重次(勝家)の時代まで、この地は松倉氏により統治された。

嶋原藩と宗教について考えるとき、この松倉氏の統治下で起こった「島原・天草一揆」が転機となっていることがわかる。江戸時代初期、寛永十四(一六三七)年から翌十五年にかけて起こった島原・天草一揆は、飢饉の中での重税やキリシタンへの厳しい弾圧に島原・天草地域の領民たち

が抵抗し、幕府軍と対峙した大規模な一揆である。一揆勢がキリシタンである天草四郎時貞を首領として原城へ籠城したことから宗教一揆とみなされた。天草の富岡城や、島原城などを攻撃した一揆勢は、その後原城(現南島原市南有馬町)へ立て籠もり、その人数は数万人に達したと言われている。事態を重く見た江戸幕府は九州の諸大名を動員し、圧倒的な勢力で一揆を鎮圧した。一揆側、幕府側ともに多数の死者を出す激しい戦いとなったこの一揆は、江戸幕府にとって大きな衝撃であった。一揆鎮圧後、幕府はポルトガル船の来航禁止、宗門改役の設置などの政策を実施し、貿易統制、宗教統制を強化していくこととなる。本稿で紹介する「宗門御改影踏帳」もこのような江戸幕府の宗教政策方針を反映して作成されたものである。

元和二年の嶋原藩成立以前から、この地域はキリスト教と縁が深い場所であった。永禄五(二五六)年、ポルトガルの宣教師ルイス・デ・アルメイダが来航し同地にキリスト教が伝えられる。戦国時代にこの地域を領有した有馬氏は、敵対関係にあった竜造寺氏との戦いにおける支援や、貿易による利益を求めて宣教師の布教を認め、その結果としてキリスト教は領内に広まっていた。

天正期、有馬家の当主であった晴信はキリスト教の布教を許可し、天正八(一五八〇)年には自らも洗礼を受けキリシタン大名となった。領内にはキリスト教の教育機関であるセミナリヨが設立され、天正十年にローマへ送られた天正遣欧使節には晴信の名代として有馬領の少年千々石ミゲルが派遣されている。有馬氏のこのような政策のもと領内にはキリスト教が根付き、また貿易によって様々な西洋の品や書物、印刷技術などがもたらされたことで華やかなキリシタン文化が栄えた。

しかし、慶長十七(一六二二)年、有馬晴信は岡本大八事件¹に関わって失脚、自害する。その子直純は所領を受け継いだ。二年後の慶長一九年に日向国延岡へ転封となった。その後一時天領となった嶋原に松倉氏が入り、領内では一転してキリシタン弾圧が行われていく。領内のキリシタンは改宗を迫られ、応じない者には拷問も行われた。この様子は、海外でも紹介されることとなり、厳しい弾圧は島原・天草一揆の原因の一つともなった。一揆後、松倉氏は改易・斬首の処分を受けることとなる。

このように、嶋原藩はキリシタン文化の繁栄から禁教、そして弾圧と一揆による抵抗と、キリ

スト教と深く関わってきた地域であったと言える。そのため、一揆後幕府は嶋原藩の宗教・人民統制に細心の注意を払っている。一揆の直後には、原城で幕府軍の指揮をとった松平信綱を嶋原へ滞在させ事後処理を命じた。信綱は原城を徹底的に破壊するとともに、この地域にキリシタン禁止や、耕作奨励、浮浪人対策などの農民維持・治安維持政策を掲げ、領内の安定を図っている。更に、幕府は嶋原を譜代大名領にすることとし、寛永十五（一六三八）年四月に遠江浜松城主高力忠房を藩主に任命した。高力氏によって一揆からの復興が行われたが、一方で独断的な政治が行われたとされ、更に寛文九（一六六九）年には福知山城主松平忠房が嶋原藩主に任命された。嶋原に入った忠房は藩体制の安定へ向けて、諸行政機関の設置、領内町村の体制の確立など様々な施策を実行した。その中で、寛文十一年には領内の人口調査を兼ねた宗門改めを施行している。嶋原藩において宗門改めは、宗教統制・人民統制を実行する政策のひとつとして重要な役割を果たしていたと言えるだろう。

これ以降、嶋原藩では、寛延二（一七四二）年から安永三（一七七四）年の間一時戸田氏が藩主となる期間を除いて、明治に至るまで松平氏による統治が行われた。この時間においても嶋原藩では様々な困難が生じ、統治は容易なものではなかったようである。

領内では災害や飢饉が度々発生し、領民を困窮させた。元禄期以降、干ばつ・田畑への虫害、風水害などが立て続けに起こっている。また、忠房以後、松平家は実子相続ができず養子による相続が行われたが、いずれも夭逝し藩政が安定しない状態が続いた。享保十五（一七三〇）年には島原・天草一揆以降初の百姓一揆も起こっている。更に、藩では財政の立て直しと農村の救済のために櫛蠟の生産を開始したが、事業の最中であつた寛政四（一七九二）年には雲仙岳の眉山が爆発し、嶋原と対岸の肥後国に多数の死者を出すという事態が起こった。これにより再び行政、財政は混乱することとなる。このような状況を受けて、同年に藩主となつた忠馮は藩政改革を実行する。三府法²と呼ばれる行政機構を施行して財政の管理を行い、文化十三（一八一六）年には家臣数の削減が提案された。また、農村の制度改革や、人心収攬、封建教学の再確認を目的とした藩校稽古館の設立なども行つて藩政の安定に努めている。

このような統治の過程で、嶋原藩では領内の人口や耕地等に関する調査が幾度か行われている。藩政改革期には家臣数削減の提案に伴い家臣の「系譜明細帳」の作製が行われ、また農村改革のた

めに領内の人口調査が行われた。更に、文政六（一八二二）年には田畑数・家数から農民の日常生活、牛馬数、寺院本末等までの詳細な明細書の作製が命じられている。本稿掲載の資料が作成された天保期にも、天保三（一八三二）年に領内の人口調査が行われた。災害からの復興や、藩政の速やかな立て直しのために領内の情報収集が必要とされたためと考えられる。本稿で紹介する「宗門御改影踏帳」もまた、一部ではあるが嶋原藩の人口を知り得る資料であり、宗門人別帳がキリシタン禁制と同時に戸籍の役割を果たすものであったことから、この「影踏帳」は嶋原藩において領内調査の一端を担う意味をも持ったものであったのかもしれない。本資料は嶋原藩の宗教問題について、また幕府や藩の宗教統制、人民統制政策について考える上でも参考になるものであると言える。

1 本多正純の家臣であった岡本大八が、有馬晴信へホルトガル船撃沈の功を上申するとして、晴信から賄賂を受け取り、幕府に発覚し処分された事件。

2 総司のもとに札司・勘定・米金の三府を設置し、会議制によって借銀の利子支配や大阪屋敷の運用を行い、歳出歳入を一本化した。

凡例

- 一、本書は、嶋原藩の宗門人別改帳である。
- 一、本書の原本は、西南学院大学博物館に所蔵されている。
- 一、刊行に際しては、なるべく原本の体裁を表すようにつとめたが、多少の修正を加えているところもある。
- 一、変体仮名は、江、而のみ活字を小さくして用い、他は平仮名に改めた。また方はもとのままにした。
- 一、旧字は原文通りとした。
- 一、原本の虫損等により判読不能の文字は□で示した。
- 一、原本の抹消や書き直しなどによる訂正はその両方を示した。
- 一、氏名は原文通りとした。
- 一、原本にある貼紙は四角で囲んで表記し、貼紙で消された部分は「」で表記した。

天保二年寅十二月十六日改元
文政十四年

一

宗門御改影踏帳

卯正月

寄合

一我々儀切死丹^而無御座親祖父^方全轉^而も無御座候ニ付影踏宗門并頼置候寺又は生國銘々書附
差上申候少も切死丹之儀心底ニ含不申候ニ付切死丹之記證文ニ書載申候此旨相違御座候ハ、て
うす伴天連ひいりよすひりつさんとふ始さんたまりや諸々のあんしよへあとの罰を蒙てうすの
からさ絶果しふたつの如く頼母敷を失ひ終ニ頓死仕いんへるの、苦患責られ浮事御座有間敷候
事

一自然切死丹之儀承候ハ、可申上候事

一只今迄之宗門替申度ニ付^而ハ御断申上其上^ニ替可申事

一我々儀弥切死丹^而無御座候ニ付又日本之記證文を以申上候若偽お申上者梵天帝釋四天王惣^而

日本國中大小之神祇八幡大菩薩愛宕山大権現天満自在天神別^而温泉四面大明神猛嶋大明神之可

蒙御罰者也仍^而起證文如件

旅行

一 浄源寺印 生嶋原

黒田祐右衛門印

一同 寺印 同

妻〇

ノ式人内男老入
女老入

一 浄源寺印 生嶋原

黒田三郎兵衛

一同 寺印 同

倅 三之進〇

一同 寺印 同

娘 きん〇

一 浄源寺印 生嶋原

三郎兵衛娘 ちか〇

ノ四人内男三人
女一人

一 浄源寺印 生嶋原

内藤周平

ノ老人男

一 浄源寺印 生嶋原

齋藤戸一郎印

ノ老人男

旅行

一 善法寺印 生嶋原

西岡久左衛門印

一同 寺印 同

倅 直五郎〇

一同 寺印 同

同 鉄弥〇

一同 寺印 同

同 安馬〇

〔一同 寺印 同 友之丞〕

一同 寺印 同

同 友之助〇

ノ六人男

一 晴雲寺印 生嶋原

弓削五助印

一同 寺印 同

倅 金吉〇

一同 寺印 同

同 直三郎〇

ノ三人男

一 晴雲寺印 生嶋原

千紅印

ノ老人男

一善法寺印 生嶋原

池田幾左衛門印

一同寺印 同

倅 猪久男○

一同寺印 同

同 惣三郎○

一同寺印 同

同 栄次郎○

一同寺印 同

娘 やす○

ノ五人内男四人 女一人

一晴雲寺印 生嶋原

草野安兵衛印

一同寺印 同

娘 堂川○

一同寺印 同

同 怒左○

ノ三人内男二人 女一人

一江東寺印 生嶋原

柴田初大夫印

ノ老人男

一江東寺印 生嶋原

旅行

岡野唯治印

一同寺印 同

倅 保馬○

同寺

みち○

ノ三人男

一快光院印 生嶋原

本多原兵衛

一快光院印 生嶋原

原兵衛倅 亀冬助○

一同寺印 同

娘 起か○

ノ三人内男二人 女一人

一崇台寺印 生嶋原

坂本織右衛門印

ノ老人男

一快光院印 生嶋原

井塚平兵衛印

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一同 寺印 同

〆六人内男四人 女二人

一晴雲寺印 生嶋原

一同 寺印 同

一同 寺印 同

一崇台寺印 同

〆四人男

一晴雲寺印 生嶋原

一同 寺印 同

〆式人男

一快光院印 生嶋原

一同 寺印 同

妻〇

倅 寿次郎〇

娘 きん〇

同 て川〇

同 王か〇

阿部玄助印

倅 雄三郎〇

同 智八郎〇

弟 金寿〇

伊藤大八印

倅 八三郎〇

成田喜藤太印

倅 一之助〇

晴雲寺	本田太郎治
同 妻	
同 妹	
同 い名	
同 祖母	

一快光院印 生嶋原

〆老人男

一護国寺印 生嶋原

一同 寺印 同

大槻丈大夫印

西川六右衛門印

妻〇

一同 寺印 同 倅 亀次郎○
一同 寺印 同 姉 ま川○

一淨源寺印 生嶋原 三浦啓大夫印
ノ四人内男三人 女一人

一崇台寺印 生嶋原 石田徳蔵印
ノ老人男

一晴雲寺印 生嶋原 林實大夫印
ノ老人男

一晴雲寺印 生嶋原 岡野為蔵印
一同 寺印 同 倅 金弥○

一同 寺印 同 娘 ゆ起○
一同 寺印 同 同 や恵○

一同 寺印 同 同 ん能○
ノ五人内男三人 女二人

除 土橋麻太郎左
方へ養ふ

一善法寺印 生嶋原 伊藤文助印

一同 寺印 同 倅 鉄馬○
一同 寺印 同 娘 満勢○

ノ三人内男一人 女二人

一光傳寺印 生嶋原 尾崎源一郎印

一同 寺印 同 倅 金平○
一光傳寺印 生嶋原 源一郎倅 源三郎○

一同 寺印 同 娘 て徒○

一 同 寺 印	同	のせ
一 同 寺 印	同	きん
一 同 寺 印	同	す恵
一 同 寺 印	同	か祢
一 安養寺 印	同	妻
一 護国寺 印	生嶋原	雨森仁平 印
一 晴雲寺 印	生嶋原	高橋寛兵衛 印
一 同 寺 印	同	倅 亀三郎
一 晴雲寺 印	生嶋原	寛兵衛娘 以を
一 三人内 <small>男 貳人 女 一人</small>	生嶋原	中村實兵衛 印
一 桜井寺 印	生嶋原	中村寿八郎 印
一 桜井寺 印	生嶋原	倅 亀治
一 同 寺 印	同	
一 貳人男	生嶋原	雨森権五郎
一 護国寺 印	同	妻
一 同 寺 印	同	
一 貳人内 <small>男 一人 女 一人</small>	生嶋原	鈴木恒治 母
一 浄源寺 印	生嶋原	
一 護国寺 印	生嶋原	大久保郡右衛門 妻
一 同 寺 印	同	
一 浄源寺 印	生嶋原	内藤真左衛門 妻

ノ四人内男三人 女一人

一善法寺印 生嶋原

内嶋金平治印

一同寺印 同

妻〇

ノ式人内男一人 女一人

一安養寺印 生嶋原

佐野弥七印

一同寺印 同

妻〇

一同寺印 同

倅 仙次郎〇

ノ三人内男二人 女一人

一崇台寺印 生嶋原

尾崎十右衛門

一真藏寺印 同

妻〇

ノ式人内男一人 女一人

一龍泉寺印 生嶋原

本多市右衛門印

一護国寺印 同

祖母〇

一専念寺印 同

淳治 妻〇

一龍泉寺印 同

倅 文平〇

一同寺印 同

弟 定吉〇

一同寺印 同

同 八十治〇

一同寺印 同

同 官三郎〇

一同寺印 同

同 又八〇

浄源寺 野村四平

妙好寺 妻

江東寺 倅 兵太郎

浄源寺 喜久太郎

ノ四人内三人

一同寺印

同

同市右衛門弟 周治〇

一 病死 ×

一 護国寺印 同 妹 たか○

一 専念寺印 生嶋原 市右衛門妻○

一 同 寺印 同 娘 満ち○

一 同 寺印 とう 〃 川や○

一 同 寺印 同 本多市兵衛○

一 同 寺印 同 母○

一 龍泉寺印 同 妻○

一 専念寺印 同 倅 泉之助○

一 同 寺印 同 友太郎○

一 同 寺印 同 同 数治○

一 同 寺印 同 娘 す恵○

一 同 寺印 同 弟 鉄五郎○

ノ 式拾壹人内男拾三人 女八人

一 光泉寺印 生嶋原 本多湯大夫印

一 光泉寺印 生嶋原 湯大夫 妻○

一 同 寺印 同 倅 与松○

一 江東寺印 同 同人 妻○

一 光泉寺印 同 倅 米三郎○

一 同 寺印 同 同 孫四郎○

一 同 寺印 同 娘 きち○

一 同 寺印 同 娘 かめ○

ノ 八人内男四人 女四人

一 専念寺印 生嶋原 糸岐太郎右衛門

一 同 寺印 同 倅 市三郎○

一 同 寺印 同 同 猪十郎○

- | | | | |
|--------|-----|----------------|---------|
| 一 護国寺印 | 同 | 同 | 盛三郎○ |
| 一 専念寺印 | 生嶋原 | 太郎右衛門弟 | 益之丞○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 良藏○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 平藏○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 政治○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 忠次郎○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 龜五郎○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 妹 | やす○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 娘 | なを○ |
| 一 安養寺印 | 生嶋原 | 中山要右衛門 | 妻○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 中山市郎治 | ○ |
| 一 専念寺印 | 同 | 妻○ | |
| 一 安養寺印 | 生嶋原 | 市郎治倅 | 金次郎○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 娘 | き多○ |
| 一 快光院印 | 生嶋原 | 板倉八右衛門家来 | 三上定右衛門印 |
| 一 同 寺印 | 同 | 倅 | 喜久之進○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 龜十郎○ |
| 一 同 寺印 | 同 | 同 | 弥寿馬○ |
| 一 四人男 | | | |
| 一 快光院印 | 生嶋原 | 當病 | |
| 一 老女人 | | 板倉八右衛門家来溝口平右衛門 | 妻 |
| 一 晴雲寺印 | 生嶋原 | 松平勘解由家来 | 小柳津数藏印 |
| 一 同 寺印 | 同 | 倅 | 弥寿馬○ |

除キ

當病

一晴雲寺^印 生嶋原

数藏娘 登志○

ノ三人内男試人
女試人

一快光院^印 生嶋原

松平勘解由家来鈴木蓋十郎 妻○

ノ老人女

一晴雲寺 生嶋原

世古徳兵衛 妾

榮母二成影踏御免

ノ老人女

一本光寺^印 生嶋原

一瀬文治 妾○

ノ老人女

一快光院^印 生嶋原

中山順繩 妾○

ノ老人女

一光傳寺^印 生嶋原

村田栄記 厄介女○

ノ老人女

一晴雲寺^印 生嶋原

和田与惣左衛門 妾○

ノ老人女

一勝光寺^印 生嶋原

塚本俊左衛門 妾○

ノ老人女

一本光寺^印 生嶋原

板倉喜平太 厄介女○

ノ老人女

一快光院^印 生嶋原

牧十郎平厄介 春満○

ノ老人女

一安養寺^印 生嶋原

伊藤保男 厄介女○

ノ老人女

一徳法寺^印 生嶋原

柴原久五八 厄介女○

ノ老人女

一本光寺^印 生嶋原

石原伊織 妾○

ノ老人女

一勝光寺^印 生嶋原

出田春臺 妾○

ノ老人女

一晴雲寺^印 生嶋原

内村助右衛門 妾○

ノ老人女

一本光寺^印 生嶋原

平井孫三郎 妾○

ノ老人女

一浄源寺^印 生嶋原

伊東数助家内 みを○

ノ老人女

一浄源寺^印 生嶋原

小篠萬之丞 妾○

ノ老人女

一浄源寺^印 生嶋原

梅村弁太郎 妾○

ノ老人女

一光傳寺^印 生嶋原

洪川主水厄介 きよ○

ノ老人女

一龍泉寺^印 生嶋原

宮川慶右衛門賄女 春み○

ノ老人女

旦那寺召付事晴雲寺

一龍泉寺^印

林代山甫家内 王起○

ノ老人女

一江東寺^印

谷川安之進叔父友大夫家内 きち○

ノ老人女

一

松平勘解由家来稲田貞九郎 妻○

ノ老人女

此所ニ松平勘解由家来中島本右衛門家内共入事

禪宗
浄土宗
法花宗
一向宗
右寺分

本光寺印
江東寺印
晴雲寺印
龍泉寺印
快光院印
桜井寺印
崇台寺印
護国寺印
光傳寺印
安養寺印
善法寺印
浄源寺印
専念寺印
勝光寺印
真藏寺印
専光寺印
光泉寺印
専照寺印
徳法寺印

一切死丹宗門并轉之者御穿鑿全恒例急度被仰付拙僧共旦那胡乱成宗門無御座候自然不審成者御座

候ハ、急度可申上候若脇方訴人御座候ハ、拙僧共不可遁其罰候則旦那名書頭ニ判形仕差上申候
此外銘々別紙證文差上申候為後日仍如件

徳法寺印

専照寺印

光泉寺印

専光寺印

真藏寺印

勝光寺印

専念寺印

浄源寺印

善法寺印

安養寺印

光傳寺印

護国寺印

崇台寺印

桜井寺印

快光院印

龍泉寺印

晴雲寺印

江東寺印

本光寺印

酒井助大夫殿
水谷梶兵衛殿

一晴雲寺^印 生嶋原

手代圓平 妻○

二帳二入

メ老人女

一淨源寺^印 生嶋原

手代勘藏 母○

メ老人女

一晴雲寺^印 生嶋原

手代孫左衛門 妻○

メ老人女

一江東寺^印 生嶋原

手代 薰平^印

メ老人男

一崇台寺^印 生嶋原

手代 彈三郎^印

一同 寺^印 同

倅 梅之助○

一同 寺^印 同

娘 婦左○

メ三人内男一人
女二人

一晴雲寺^印 生嶋原 **旅行**

手代京右衛門 母○

メ老人女

西村弥平衛娘猪兵衛妻と
成候

江東寺 猪平
江東寺 妻
江東寺 いの

一江東寺^印 生嶋原

手代 啓之助

二之帳二入

此所除

一同 寺^印 同

弟 伊三郎○

一江東寺印 生嶋原 手代 覚之助印

ノ老人男

一浄源寺印 生嶋原 手代勘藏 母〇

ノ老人女

一江東寺印 生嶋原 手代 猪兵衛印

一同 寺印 同 娘 以乃〇

一同 寺印 同 妻〇

ノ三人内男三人
ノ三人内女三人

一崇台寺印 生嶋原 手代 弾三郎印

快光院 手代 完藏

一同 寺印 同 倅 梅之助〇

一同 寺印 同 除き 同 辰次郎〇

一同 寺印 同 娘 婦さ〇

ノ四人内男三人
ノ四人内女一人

当病

一江東寺印 生嶋原 手代 啓之助印

一同 寺印 同 弟 伊三郎

一同 寺印 同 妹 み徒

二ノ帳二入

不残除き

ノ三人内男二人
ノ三人内女一人

一晴雲寺印 生嶋原 手代 忠治印

ノ老人男

一晴雲寺印 生嶋原 手代恭右衛門 祖母

ノ老人女

一 浄源寺^印 生嶋原

番人 清右衛門 妻〇

ノ 老人女

一 浄源寺^印 生嶋原

番人 惣七^印

一同 寺^印 同

倅 寿弥〇

片田佐五郎
安養寺 祖母

一 願心寺^印 同

妻〇

ノ 三人内^{男 式人 女 老人} 病死

一 快光院^印 生嶋原

番人 善大夫^印

一同 寺^印 同

當病 妻

ノ 式人内^{男 式人 女 老人}

一 桜井寺 生嶋原

番人 宇兵衛

ノ 老人男

一 浄林寺^印 生嶋原

番人 沖左衛門^印

ノ 老人男

一 晴雲寺^印 生嶋原 當病

番人 元藏家内女 とく

ノ 老人女

一 光傳寺^印 生嶋原

合力組元番人 壮兵衛後家 恵ひ〇

ノ 老人女

一 桜井寺^印 生嶋原

下横目 儀右衛門^印

一同 寺^印 同

娘 よし〇

ノ 式人内^{男 老人 女 老人}

一 浄源寺^印 生嶋原 當病

下横目 新八

一同 寺^印 同

倅 申之助〇

一同 寺^印 同

娘 ぎん〇

ノ 三人内^{男 式人 女 老人}

一江東寺印 生嶋原

下横目三木兵衛 母○

ノ老人女

一晴雲寺印 生嶋原

下横目 嘉久士印

當病

一同 寺印 同

母○

一同 寺印 同

弟 覚三郎○

一同 寺印 同

姉 そよ○

ノ四人内男三人

一浄源寺印 生嶋原

下横目柳之助家内 申之助○

ノ老人男

一崇台寺印 生嶋原

下横目 老助印

一護國寺印 同

倅 作太郎

一同 寺印 同

娘 さん○

一護國寺印 生嶋原

老助娘 ちせ○

一同 寺印 同

同 なべ○

ノ五人内男三人

一晴雲寺印 生嶋原

町同心節兵衛 妻○

ノ老人女

一晴雲寺印 生嶋原

御簾組兼五郎 妻○

保義下改名

ノ老人女

光傳寺 御簾組 久治郎

ノ老人男

一快光院印 生嶋原

御簾組 源兵衛印

一同 寺印 同

倅 萬寿男○

メ式人男 快光 以上 二男

一 浄源寺^印 生嶋原 御簾組 久右衛門^印

同寺 以上 みき

一 江東寺^印 同 娘 ちよ〇

一 晴雲寺^印 生嶋原 久右衛門母〇

一 西方寺^印 同 妻〇

メ四人内男三人

一 浄源寺 生嶋原 外組 與八

メ老人男

光伝 御旗組 虎之丞

同 姉 しの

安養 妹 すの

メ三人

同組

護国 亀治

〃 母

〃 叔母

〃 姪

メ四人

一 快光院^印 生嶋原 外組 源吉^印

一 同寺^印 同 倅 源太郎〇

一 同寺^印 同 同 鶴之助〇

病 死

一 同寺^印 同 同 末吉〇

一 同 寺 <small>印</small>	同	家内女 具満○
一 桜井寺 <small>印</small>	同	娘 由き○
ノ六人内 <small>女男式四人</small>		
一 晴雲寺 <small>印</small>	生嶋原	板倉八右衛門家来 荒木財右衛門 <small>印</small>
一 同 寺 <small>印</small>	同	妻○
一 同 寺 <small>印</small>	同	倅 嘉市○
一 同 寺 <small>印</small>	同	同 鉄之進○
一 同 寺 <small>印</small>	同	同 清治○
一 同 寺 <small>印</small>	同	娘 左を○
ノ六人内 <small>女男式四人</small>		
一 本光寺 <small>印</small>	生嶋原	板倉八右衛門家来高橋庄左衛門 妻○
ノ老人女		
一 晴雲寺 <small>印</small>	生嶋原	板倉八左衛門家来高橋藤助 妻○
ノ老人女		
一 晴雲寺 <small>印</small>	生嶋原	板倉八右衛門家来 大槻長右衛門 <small>印</small>
一 西方寺 <small>印</small>	生嶋原	長右衛門 妻○
ノ式人内 <small>女男老人</small>		
一 玉峯寺 <small>印</small>	生嶋原	板倉八右衛門家来 佐々木英玖 <small>印</small>
ノ老人男		
一 晴雲寺 <small>印</small>	生嶋原	板倉八右衛門家来 大槻和右衛門 <small>印</small>
一 同 寺 <small>印</small>	同	倅 喜久太郎○
一 同 寺 <small>印</small>	同	同 熊太郎○
一 同 寺 <small>印</small>	同	當病
ノ四人内 <small>女男老人</small>		
一 快光院 <small>印</small>	生嶋原	板倉八右衛門家来 三上定之丞 <small>印</small>
ノ老人男		

一江東寺印 生嶋原

松平勘解由家来川野徳右衛門 妻

ノ老人女

一西方寺印 生嶋原

松平勘解由家来中島斗右衛門家内 てう○

ノ老人女

一快光院印 生嶋原

松平勘解由家来 松尾安太郎印

ノ老人男

一蓮正寺印 生嶋原

片山與惣兵衛家来 松下平助印

一同 寺印 同

倅 平太郎○

一同 寺印 同

娘 か徒○

一同 寺印 同

同 きん○

一同 寺印 同

妻○

ノ五人内男三人 女二人

一安養寺印 生嶋原

内嶋金平治厄介 猪之助○

ノ老人男

一晴雲寺印 生嶋原

酒井助太夫家来 稲田浅治印

不残除き

一専念寺印 同

妻○

ノ式人内男老人 女老人

一快光院印 生嶋原

除き

手代 寛蔵印

ノ老人男

禪宗

浄土宗

法花宗

一向宗

右寺分

本光寺印

江東寺印

浄林寺印

晴雲寺印

玉峯寺印

快光寺印

崇台寺印

桜井寺印

護國寺印

光傳寺印

安養寺印

浄源寺印

願心寺印

西方寺印

蓮正寺印

一切死丹宗門并轉之者御穿鑿恒例急度被仰付拙僧共且那胡乱成宗門無御座候自然不審成者御座候ハ、急度可申上候若脇方訴人御座候ハ、拙僧共不可通其罰候則且那名書頭ニ判形仕差上申候此
外銘々別紙證文差上申候為後日仍如件

專念寺印

蓮正寺印

西方寺印

浄源寺印

安養寺印

光傳寺印

護國寺印

願心寺印

酒井助大夫殿
東儀左衛門殿

桜井寺 ⑩
崇台寺 ⑩
快光院 ⑩
玉峯寺 ⑩
晴雲寺 ⑩
浄林寺 ⑩
江東寺 ⑩
本光寺 ⑩